

十月のテーマ

創刊千号!

千週の稽古



え・たむらかづみ

「今週の倫理」は、まもなく創刊1000号を迎えます。今月は、本紙に関連した内容や、「千」「1000」という文字や数字にちなんだ法人会の活動を取り上げます。

【今】週「今週の倫理」は平成9年9月1日に第1号が発行されました。その同じ日に誕生した同級生の単会があります。香川県丸亀市倫理法人会です。香川県の倫理法人会活動は、この丸亀市と、ほぼ同時期に共に活動していた高松市を軸に発展を遂げてきました。

香川県倫理法人会が設立されたのは平成7年のことです。現在は県内に10単会、会員数約1200人を有するまでになった同県の特徴を挙げてみましょう。

一点目は、歴代の県会長が皆、何らかの形で倫理運動にかかわり続け、陰に日向に活動を支えている点です。この土台の中で、堅実で着実な組織が育まれてきました。二点目は、東西の競争関係をうまく活かしている点です。丸亀を中心とした西部と、高松を中心とした東部が互いに切磋琢磨してきた結果、それぞれの地域から役職者が多く誕生してきました。三点目は、諸活動に早めに取り組む体制です。例年6月には県の目標を達成し、7月には新年度の

人事・活動計画を策定、8月には次期役員研修を終了して、9月から一気にスタートできる体制を築き上げてきたのです。

また、香川県では昨年度、設立20周年という節目に、大きな目標を掲げました。近年の課題だった経営者モーニングセミナー(以下MS)をさらに充実させるために目指したのが、都道府県別自単会参加社数における日本一でした。

全単会で所属会員数の30%を超える出席を目指し、その方策として、MSの精度を高めるリハールに力を入れ、また一人ひとりへの声かけを徹底した結果、今年2月にはMS出席社数平均30・16社を達成。全国1位に輝きました。さらに、高松南倫理法人会が年間のMS平均参加社数(当該単会)で全国3位に入ったことも特筆すべき点でしょう。

香川県は会員浸透率(企業数における会員社数)でも、全国トップクラスに位置しています。これらは決して一朝一夕に成し遂げられたことではありません。地道で堅実

な活動の積み重ねが、大きな成果となつて現れたのです。

それはまさしく全国のような倫理法人会にも当てはまるでしょう。丸亀市や高松市同様、すでにMSの開催回数が1000回を超えている単会もたくさんあります。

江戸時代の剣豪・宮本武蔵は「千日の稽古を鍛とし、万日の稽古を練とす」との言葉を遺しました(『五輪書』)。経営者の学びの場であるMSを稽古にたとえるなら、週1回のMSを千週続けることになり、これは並大抵の努力で成し遂げられることではありません。

しかし、経営者として鍛錬していく中で培われた内なる活力は、経営における様々な場面において必ずや発揮されるはずで

す。さて、千の次のステージは「万」。先は長くとも、一週一週「歩み」を続けていこうではありませんか。ちなみに日本で初めて「万歩計」を製作したのは、平賀源内だそうです。源内は、奇しくも香川県の出身であることを最後に付け加えておきましょう。